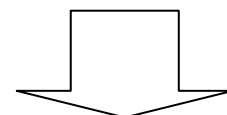


学習状況の実態・調査結果等を踏まえた内容別・観点別分析表

1 年	2 年	3 年
<ul style="list-style-type: none"> 授業への関心・意欲は高く、ほとんどの生徒は積極的に取り組んでいる。実習の作業に対する関心や安全性などへの意識も高い。 速さを重視して作業が粗雑になる生徒も中にはいる。 基本的な知識を実生活で活かせるようにすることが必要である。 実習中に自分の作業が分からず動けない生徒が何人かいる。周囲の生徒がカバーしている。 説明プリントなどを見て自分で考えて作業に取り組む事ができない生徒が数名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 衣分野の授業への関心・意欲は高く、特に実習はほとんどの生徒が積極的に取り組んでいる。 授業での発言が少なくなっている。 授業を通して身につけた知識や技術が、実際の生活で役立っているかといえば、十分とはいえない。 説明プリントなどを見て自分で考えて作業に取り組む事ができない生徒が数名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの生徒が落ち着いて授業に取り組んでいる。少数の生徒が集中して取り組めない。 授業を通して身につけた知識や技術が、実際の生活で役立っているかといえば、十分とはいえない。



指導方法の課題分析と具体的な授業改善及び補充指導の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
一年	<ul style="list-style-type: none"> 食品の栄養や特質などの学習を苦手とする傾向がある。 実習の安全性、衛生面での意識を高め続けさせていくことが必要である。 小学校・中学校を通して学んだ基礎的な知識や技術を実習に活用し、作業を丁寧に行うよう指導していく必要がある生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の関心が高い実習の中で、用いる食品の栄養素やそのはたらきなどを繰り返し扱い、基本的な栄養知識の定着を図る。 実習の中で安全性・衛生面を繰り返し確認し、学習内容を復習しながら進める。 実習での作業内容を伝えておき、実習中作業がうまく進められない生徒には個別に指導をする。 学習形態を工夫し、協力・教え合う態度を育てる。 丁寧な作業の重要性を伝える機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習・実験後のワークシートやレポートの提出を習慣づける。 作業の進度が遅れている生徒には、昼休みなどを利用して補充する。 家庭での実践課題を出す。
二年	<ul style="list-style-type: none"> 実習や授業の内容を理解していても、それを応用して課題を解決する力は不足している。 実習だけではなく、それに関連する知識も身につけることが必要である。 授業への関心・意欲は高いが、自分の意見を他の生徒の前で発表するのが少なくなってきた生徒やまったくできない生徒が多くなってきた傾向がある。 学習に集中できない、他の人と協力する、他の人の話を聞いて学ぶ姿勢が見られない生徒が少数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習ではできるだけ少人数制にし、全員が全ての作業工程に携われるようにし、作業の段取りの重要性を理解させるとともに、一人一人の技術の向上を図る。 実習の授業とともに、その内容を振り返る授業も組み合わせて指導する。 基礎基本の定着を図るために、個別対応を心掛ける。 積極的に発言する、自分の考えを表現する姿勢をつくれるような雰囲気作りをしていく。（積極性が認められる生徒を褒めるなど） 	<ul style="list-style-type: none"> 実習・実験後のワークシートやノート提出を習慣づける。 作業の進度が遅れている生徒には、昼休みなどを利用して補充する。 家庭での実践課題を出す。
三年	<ul style="list-style-type: none"> 実習や授業の内容を理解していても、実生活に活かされていないのが現状である。 	<ul style="list-style-type: none"> 実生活に関わりのある教材を提示し、家庭での実践意欲を持たせる。 グループ学習などを通して、自分の意見を他の人へ伝えたり、それを聞きあったりする機会を設ける。 学習に集中できるような教材の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習・実験後のワークシートやノート提出を習慣づける。 作業の進度の遅れている生徒に対しては、昼休みなどを利用して補充する。